

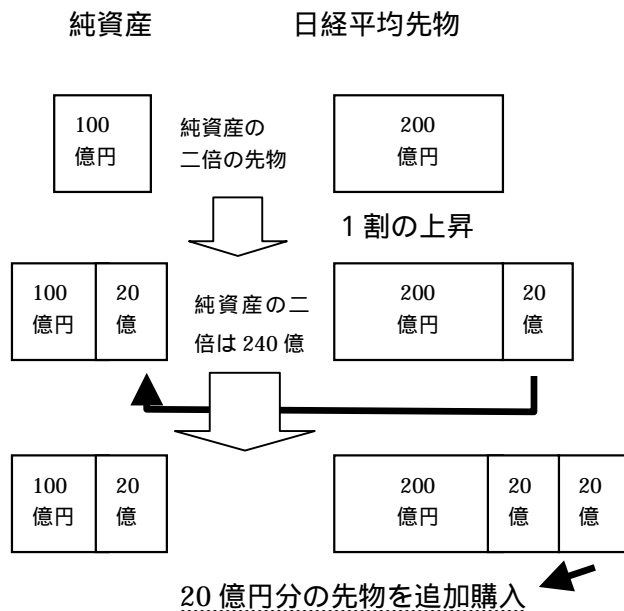
ポブベっくのやさしい投資信託

第 38 回 派生商品型投資信託のリスク
その 2

(8) 派生商品型投資信託のリスク ダブルプル型ファンドの運用

前回、純資産 100 億円のファンドを例に、日経平均のダブルプル型ファンドの運用を解説しました。純資産 100 億円のファンドの場合、日経平均先物を純資産の二倍、即ち 200 億円分購入します。日経平均が 1 割上昇すると、日経平均先物は 220 億円となりますから利益は 20 億円です。純資産は 20 億円の利益によって 120 億円となりますから、日経平均先物を純資産の二倍保有するためには、240 億円必要です。しかし日経平均先物は 220 億円ですから、残り 20 億円を追加購入することで、日経平均先物が純資産の二倍になるように調節しなければならないのです。

これを図で示すと以下ようになります。

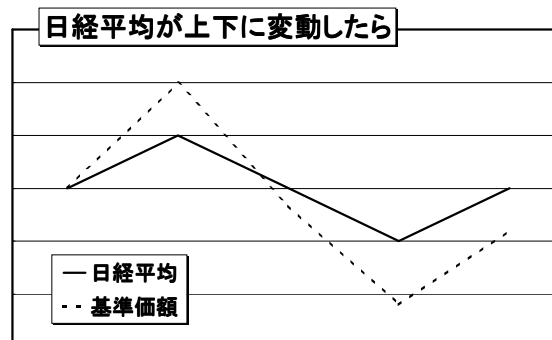
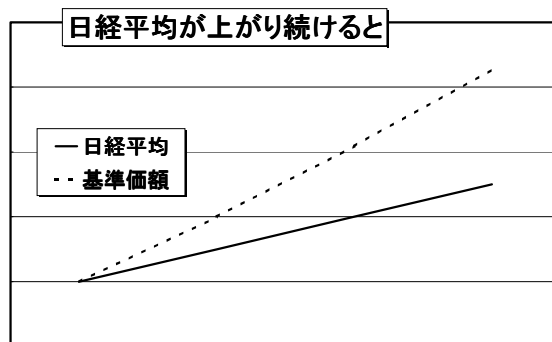


では逆に、日経平均が 1 割下落した場合を考えてみましょう。上の例と同じように、純資産は 100 億円とします。日経平均先物を 200 億円分購入します。日経平均が 1 割下落すると、日経平均先物も 1 割下落して 180 億円になりますから、損失は 20 億円

です。ファンドの純資産 100 億円は 20 億円の損失を受けて 80 億円になります。純資産 80 億円の二倍は 160 億円ですが、日経平均先物は 180 億円分保有しています。つまり 20 億円余分なのです。ここで、ファンドマネージャーは余分な 20 億円分の日経平均先物を売却しなければならないのです。

日経平均が上昇した時には、日経平均先物を追加購入し、日経平均が下落した時には日経平均先物を売却する。このような運用を繰り返しているのがダブルプル型なのです。ですから、日経平均が上下に変動を繰り返すと、どんどん基準価額は下がっていくのです。日経平均が高いときには買って、安い時には売っているのですから儲かるはずがありません。

下に「日経平均が上がり続けた時」と「上下に変動した時」にそれぞれ基準価額がどのように動くかをシミュレーションしてみました。特に「日経平均が上下に変動した時」のグラフに注目してください。日経平均は上下に変動して最後にはスタート時点と同じ水準に回復しています。しかし、基準価額はスタート時点よりも低い水準で終わっている事が分かります。これが、このファンドの特徴なのです。



長期に保有するほどパフォーマンスが悪化するようなファンドは、投資家の長期的な資産運用には必要の無いファンドです。ですから、お客様が短期的な相場観に基づいて、このファンドを購入したいと言わない限り、皆様の方からお勧めすべきファンドではないのです。